

校内別室開設による不登校対応巡回教員の支援について

不登校生徒の状況

対象生徒は、小学校高学年から教室に入れず別室登校しており、中学入学後も緊張が強く教室にも入れず休みがちだったため、登校時間をずらして保健室登校を開始した。校内や保健室内では他の生徒と接することを極度に拒み、保健室のつい立の中で数時間過ごし、給食を食べて下校していた。年度途中に、別室を開始したことで登校できるようになり、欠席も減った。現在は毎日別室に登校し、自習に励み、参加可能な行事に取り組もうとする姿が見られるようになっている。

具体的な取組

○校内別室利用の生徒対応

校内別室で過ごす生徒への支援として、一人一人の状況を踏まえて関わっている。教室復帰に向けての教室整備や、関係機関の最新情報等を教職員や支援員にアドバイスすることで、安心できる環境づくりを構築している。

個々のペースでの教室復帰への参加意識が少しずつ高まっている。

○複数の教員で支援

別室でも気分の浮き沈みがある生徒は自習できる時は取り組めるが、気分が乗らない時は勉強と向き合えないため、支援員が声かけしている。不登校対応巡回教員をはじめ、担任や副担任、養護教諭やSC、管理職が別室に顔を出すことで多くの教職員と接する時間を作り、声をかけ、複数の目で対応し、支援している。

○校内支援委員会へ巡回教員が参加

週1回校内支援委員会に出席し、不登校生徒等の現状を把握するとともに具体的な支援方法について助言・アドバイスをし、情報を共有している。

参加：管理職、不登校対応巡回教員、特別支援コーディネーター、生活指導主任、養護教諭、通級指導教員、SC、SSW

○不登校対応巡回教員の視点で観察

巡回日に校内別室において、生徒に声をかけ、過ごしにくさがないか観察するとともに、支援員の困り感がないかなども確認し、環境整備に務めている。

また、校内でメタバースの情報提供や「適切な不登校生徒対応について」の教職員研修を計画している。

成果

校内別室で登校支援と学習支援を行うことで、不登校支援が定着できた。その背景には、不登校対応巡回教員の活用をはじめ、多くの教員が関わることで別室の環境整備が前進し、早期の生徒対応を行えたことが挙げられる。今後も不登校対応巡回教員からの助言を参考に、生徒理解と登校支援につなげていく。



課題

特性のある生徒への対応は個に応じた多様な支援が求められるため、生徒との関わりがもてる機会をより多く設けられるよう、引き続き、生徒支援への人材不足の解消と強化が必要である。

不登校対応巡回教員による校内での取組について

不登校生徒の状況

対象生徒は、中学校 1 年生途中から不登校であるが、当該生徒と家庭の要望により別室を利用した学習、定期考査、学年の行事に取り組んでいる。

具体的な取組

○校内別室の環境整備①

校内別室を整備し、教室に入ることができない状況となっても居場所を提供する。その時の生徒の状況（不安である、授業に対して苦手意識を感じる等）によって過ごし方を選ぶことができる環境を整える。



○校内別室の環境整備②

校内別室支援員と連携し、生徒が個別に利用するもの以外にも学習教材を整備する等、別室利用時の生活環境を整える。



○学習記録簿

毎日の校内での取組内容の振り返りを記録し、管理職、校内別室支援員、特別支援コーディネーター、担任、巡回教員等で共有し、生徒の様子や変化について把握できる支援体制を整える。

学習記録簿		月 日 ()
	目標/やること	振り返り
1		
2	読書の楽しさ	読書の楽しさ
3	読書の楽しさ	読書の楽しさ
4	読書の楽しさ	読書の楽しさ

○校内支援委員会

校内支援委員会を開催し、SSWや相談員と一緒に生徒情報の共有と対応の方法について報告、検討をして、今後の支援や校内別室支援員の活用を踏まえた別室対応の在り方等を検討する。

また、巡回教員による他校の実践事例や不登校対応への考え方を参考にする。

成果

校内の個別の居場所を整備したことで、学校生活で不安を感じる場面でも自分で行動を選択し、自己決定することで前向きに取り組む習慣が身に付き、職場体験活動等の学年行事に参加することができた。

課題

来年度では、進路を含めた学校生活の「見通し」がもてるように支援を行う。

不登校対応巡回教員による巡回担当校の取組について

不登校生徒の状況

対象生徒は、小学校在学時から登校渋りが見られており、小学校6年生の6月以降は保健室から登校となっていた。また、中学校入学後も教室に入れなかった状況が続いていた。

具体的な取組

○不登校生徒との面談

担任と不登校対応巡回教員、保護者、当該生徒と面談を行い、家庭と本人の意向や学校で行える支援内容等を確認した。

当該生徒には登校の意志があるため、不登校対応巡回教員の巡回担当日に家庭訪問を行い、登校支援を実施した。

○校内別室の環境整備

登校後に校内生活を定着させるため、校内別室の環境について管理職、コーディネーター、校内別室支援員と相談した。その結果、仕切りを設ける等の個別に利用できる環境を整えた。



○校内別室での学習支援

校内別室を利用した学校生活の中で、小学校在学時を含めた学習の遅れを気にする場面が見られた。

個別の学習支援を行うために、小学校から中学校の段階までの学習教材を複数の教科で用意して生徒が自分で選ぶことができるよう学習環境を整備した。

○学級との連携

秋の文化的行事の取組の際に、集団での活動に前向きになれない様子が見られた。その際に学級担任と連携してオンラインで総合的な学習の時間の様子を共有し、学年・学級の取組を生徒が把握できるようにした。

成果

登校支援と学習支援により、宿泊行事にも参加し、定期考査も受けることができた。不登校対応巡回教員の巡回日以外の曜日にも登校する機会が増え、同様に不登校傾向であった他の生徒も一緒に登校することができた。

課題

宿泊行事以外の集団生活へはまだ参加ができていないため、人との関わりをもてる機会を設けていく等の工夫が必要である。

不登校生徒の居場所としての校内別室とそのサポートについて

不登校生徒の状況

当該生徒は、中学校3年生である。1年生2学期より教室に入れなくなり、別室登校している。昨年度までは登校支援員のサポートを拒んでいたが、本年度になり受け入れるようになった。

具体的な取組

○不登校巡回指導教員・校内別室指導支援員のサポート

不登校巡回指導教員が積極的に別室登校の生徒と関わり、自身の教科を指導するなど、学習面をサポートした。最初に、校内別室指導支援員と別室での過ごし方を幾度か話し合い、生活上必要な最低限のルールを決めた。

○別室での生活状況を職員間で共有

校内別室指導支援員のサポート状況について日誌を使い、関係職員の間で共有した。別室登校生徒の困り感を担任等が知り、次のサポートにつなげる体制を取った。また、別室登校している生徒とSCの面談内容を校内委員会で共有し、校内の生徒指導に齟齬がないように努めた。

○別室の名称決め

「校内別室」というマイナスの感じがする呼び方から、校歌の歌詞から選んだ名前に改称した。



○所属学級との関わり

給食の受け渡しは、当該生徒が自分で取りに行くなど、校内別室指導支援員のサポートを受けて、所属学級とのつながりを保っている。また、修学旅行など、校外行事への参加に向けて、学級・学年での活動参加にも校内別室指導支援員がサポートし、無事に当日の行事に参加した。

成果

不登校対応巡回指導教員と校内別室指導支援員のサポートにより、毎日ではないが、週に何回か教室で授業を受けることができるようになった。また、校内別室での過ごし方を決めたことで、学習しようという態度が身に付き、進路選択への積極性を育めた。

課題

改築中の校舎が3月に落成するため、校内別室が「より登校したくなる」部屋となるように、備品の充実を図る。

コミュニケーション活動を通じた登校支援について

不登校生徒の状況

対象生徒は中学校3年生である。1年生の2学期（9月）から不登校となる。2年生1学期（6月）からは別室への登校を続けている。人と接するのが苦手で、家庭内の事情により精神的に不安定である。

具体的な取組

○不登校対応巡回教員による面談

面談を週1回行い、面談の内容を校内委員会で共有した。個別の利用日誌を通して生活を振り返り、教員と内容を共有して、見通しをもてるように促した。

利用日誌	
日	内容
1	
2	
3	

○SCによる面談を実施

週1回の面談を通して、当該生徒との関係づくりを進め、当該生徒との関係を築いた上で自己理解を進めていった。

気持ちを落ち着かせる場所としてソファを設置し、安心する環境を整えた。



○自立支援活動の実施

特別支援教室巡回指導教員による週1回の自立支援活動を行った。当該生徒が学習面や生活面を振り返り、考えた内容を取り組めるよう支援した。

自立支援活動の内容は校内委員会で共有した。



○別室登校の実施

子供と家庭の支援員が常駐し、別室登校時の見守りを行った。登下校時刻を他の生徒と会わない時間に設定するなどの配慮をし、別室登校時を通して外出への抵抗感を払しょくすることと、他人と接する機会に慣れるようにすることに取り組んだ。

成果

中学校3年生の5月頃から他人とのコミュニケーションを抵抗なく行えるようになってきた。卒業期までに教室での学習活動への復帰を当該生徒が目標としている。

課題

卒業後の継続的なサポート体制の維持ができるよう検討する必要がある。